参考３

第５回研究会　傍聴者によるコメントシートのまとめ

第５回研究会では、ワールド・カフェ方式による意見交換を行った。傍聴者には、その過程を傍聴して頂くとともに、希望者には、傍聴者同士による意見交換を並行して行って頂いた。本参考資料は、研究会の最後に、傍聴者に依頼し提出が得られた「コメントシート」の内容をまとめたものである。本研究会の取り組みに関心を持ち、傍聴されている関係者からの意見として、ご参照頂きたい。

１．居場所について

コメントシートにおける質問
＜あなたにとっての「居場所」とは・・・。よかったら教えてください。＞

・心がさびしくなったとき行かれる場所。居場所は人とのつながり。
・自分をすべてさらけだせる場所。
・人に尽きることを今日再確認できました。１人でいる居場所も見守られて安心できるからこその居場所。自分が〝居場所〟だと思える場所が複数あることが理想的。
・安心して自分のことが話せる場所であり、共感しあえる場。その事によって、自分自身を肯定（生きていていいんだと思える）できる場所。自分の感情を表現できる場所。いろいろな他者との出会いによって生きる意味を見いだせる。
・そこにいて、何か「しなくても」、「居る」だけで OK な場所。全存在の肯定スペース。
・失敗しても安心して戻れる場所と思います。一方で、元気がある時には自らが動いて作る場所と思います。
・職場と家庭（本当は地域といいたいところですが、仕事と子育てに忙しくて、他のチャンネルが切れています。）
・職場とアパート。言い換えれば、役割（を得られる場所）と安心（できる場所）。グループの議論でいえば、舞台と楽屋　になります。
・気持ちがおちつく場所。安心して生活できる場所。自分が仕事を通じていきいきできる場所。
・現在の仕事場であり家庭。
・「安心」できる場所。「役割」がある場所。明確ではなく、いろいろな所に存在する（していい）のだと思います。
・何もしないでいられる場所＋何かできる場所。→役割を離れられることは大切。けれど同時に、何もないと所在がない。役割は他者との通路でもある。両方あるといい。
・安心できる場所。ホッとできる場所。
・迎え入れる人が居て、安心して居られて、仲間が居て、自分の役割がそこに有って、何もしなくても居られて、居ることが容されて、そこに出入りすることが自由で、居ると温かい想いに満たされて、1

人の人間として認められて、出会いがあって、自分の中に可能性を感じ取ることが出来る場所。

２．居場所づくりをすすめるために

コメントシートにおける質問
＜「居場所づくり」をすすめていくうえでのアイディアをお願いします。＞

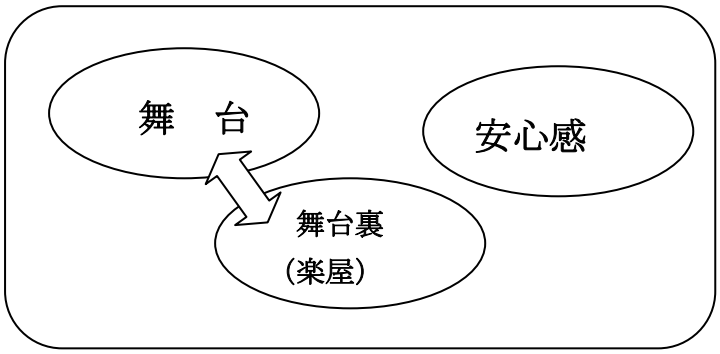
・社会性をつけていくのに、アイデアが必要。
・当法人は、話を良く聞くことです。色々な保護受給者がいます。その人に合った場所づくりが大切だと思います。
・当事者・支援者の声、意見交換できる場所を今後もつくられるといいと思います。今回のワールド・カフェは、ギャラリーとしてもこれまでの議論を整理でき、いろいろな方の考え、お話をきくことができました。居場所は複数あるというのがポイント。そのためにはさまざまな考えを出し合うことが大切ではないでしょうか。ざっくばらんに、自由に討議できたことは、可能性をさらに広げることにつながると思います。
・当事者自身が語っていき、いろいろな人たちを巻き込んでいく。「生活保護」に対して関心がなかった人も、少しでも関心を持ってもらえたらと思う。
・基本方針：受給者のスティグマの転換。アファーマティブアクション。エンパワーメント。例：「べてるの家」のような取り組み。「こうしなさい」「働きなさい」ではなく、当事者が「やってみたい」と言ったことをサポートする。うさんくさく、失敗するかもしれない思いつきを、とにかくやってみる。（地域での生活困窮者等　（相互）支援活動で）
・居場所とは、生活保護受給者だけに必要なものではないため、福祉事務所に窓口を置くのではなく、ハローワークや他の機関など、一般の方がごちゃごちゃ入ってくるようなところで受付できるような、こそっと入れるなど、心理的抵抗感が低くなる配慮があるとよいかと思います。
・既存の「公け」では、無駄や失敗が許されない中、新しい公共が、効率だけでない存在価値を認められ、〝仕掛け〟として〝場〟を作ることが必要。名古屋で実践されている方が、うさんくさい場所で最初はムダも覚悟で場を作り、当事者を巻き込んでいったことを話されていた。とはいえ、最初は個人の持ち出しで費用をねん出しているということだった。「公け」ではないとはいえ、費用面、ボランティアで継続できるのか、がとても気になる。ボランティアや内輪の自己満足で終わらないために、何が必要なのかは、大きな課題です。
・社会、地域、近隣に評価される役割。少なくとも、否定されない役割を、選択可能な数だけ用意すること。一つは、社会参加としての「仕事」。一つは所属できるグループの「一員」。他は？システムづくり。「仕事」の意味の見直し、支援プロセスにどう包みこんでいくか。システムの意図を社会全体に説明していくこと。
・当事者の立場からの居場所。具体的には、生活困窮者やいろいろな悩みをかかえた人たちが、スタッフとして活動している場所があればよい。空き店舗など、地域再生が必要な場所にカフェをつくって、人々の再生と地域の再生を目指す。社会で悩んでいるあらゆる人が、利用できる場所ができあがるとよい。
・無駄の中に→非効率、うさんくさい→明るくない、失敗してもいい→気持ちが楽、安心するところ→

気分がいい、心身ともにリラックス、一人ひとりの役割→認めてあげることのできる舞台。→一対一、気持ちがいいところ、だれもがつどえる、それでいいんだと認める、役割づくり。→これをまとめたサロンを作る。→　やってみないとわからない部分も多いと思うので、やってみる。

・「考える」だけでなく、動く（行動）するということをコーディネートできるようになれれば…と思う。〔ない（足りない）ことを見ていくのではなく、資源があるということを認識する。〕

・いま目の前にあるものを探す、使う。多様な人々が楽しみながら参加する。「失敗してもいい」ということを皆で共有する。そうした雰囲気→ごちゃごちゃした、うさんくささ。

・



舞台をコーディネート。
ネットワーク。
〝遊び〟←→　ムダ・うさんくささ
（入りやすさ・かかわりやすさ・使いやすさ。）
舞台は本人の役割。

・「場所の要件」雑多な人達が生活し、行き交う場所。できればホームレスの人も居る場所。「支援者」福祉的な感性を持ちながらも、一芸の有る人（例えば）ギタリスト、マジシャン、パティシエなど。「地域」地域の中に、介護施設や農地などがあれば、介護のボランティアが出来るし、農地があれば作物作りに参加出来る。ビルばかりの地域だけでなくて商店街がベスト。「ネットワーク」ホームレス支援、障害者支援、高齢者支援など、つながり、地域の医療や行政機関とも、顔の見える支援をつくりあげてゆく必要がある。「就労」既存の訓練の利用のみならず、マンツーマンによる各々の思いを育ててエンパワメントし、その後の就労という流れをつくってゆく必要がある。

以上